

特定都市河川の指定に向けた検討について

令和4年3月28日

鈴鹿川外・雲出川外・櫛田川外・宮川外
流域治水協議会(合同協議会)

- 浸水被害対策の総合的な推進のための流域水害対策計画(河川管理者、下水道管理者、都道府県知事、市町村長が共同)の策定、河川管理者による雨水貯留浸透施設の整備、認定雨水貯留施設の整備、雨水の流出を抑制するための規制、開発・建築を制限するための規制等、流域一体となった浸水被害の防止のための対策を推進。



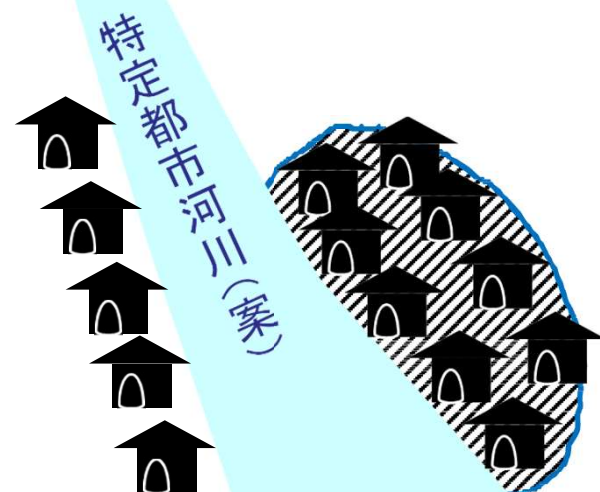
- 気候変動の影響による降雨量の増加により、現行の特定都市河川の指定要件^(※)である「市街化の進展」以外の自然的条件等の理由により浸水被害防止が困難な河川において、従来想定していなかった規模での水災が頻発。(※) 現行の特定都市河川の指定要件 = 河道整備等による浸水被害の防止が市街化の進展により困難な河川
- これらの河川についても特定都市河川法の指定対象とし、流域一体となった浸水被害対策を講ずる必要。

【改正概要】

特定都市河川の指定要件に、「接続する河川の状況」又は「河川の周辺の地形等の自然的条件の特殊性」により河道等の整備による浸水被害の防止が困難な河川を追加

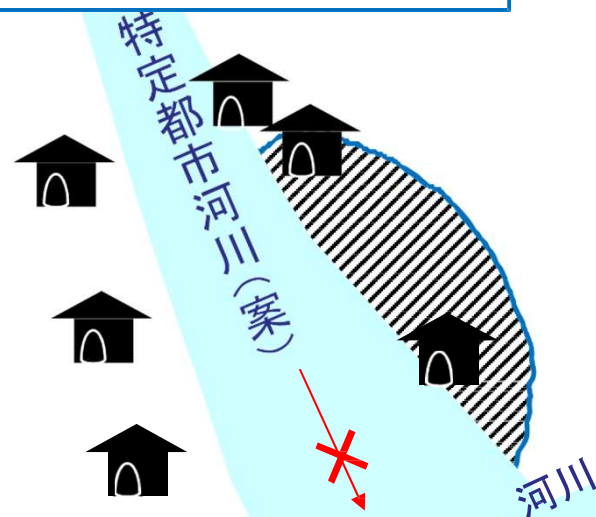
指定候補河川のイメージ(①から③のいずれか)

①市街化の進展



家屋連担等により河道拡幅困難

②接続する河川の状況



接続する河川の水位が高い際支川からの排水困難

③周辺地形その他の自然的条件



狭隘部により流下困難
その他地質、自然条件等



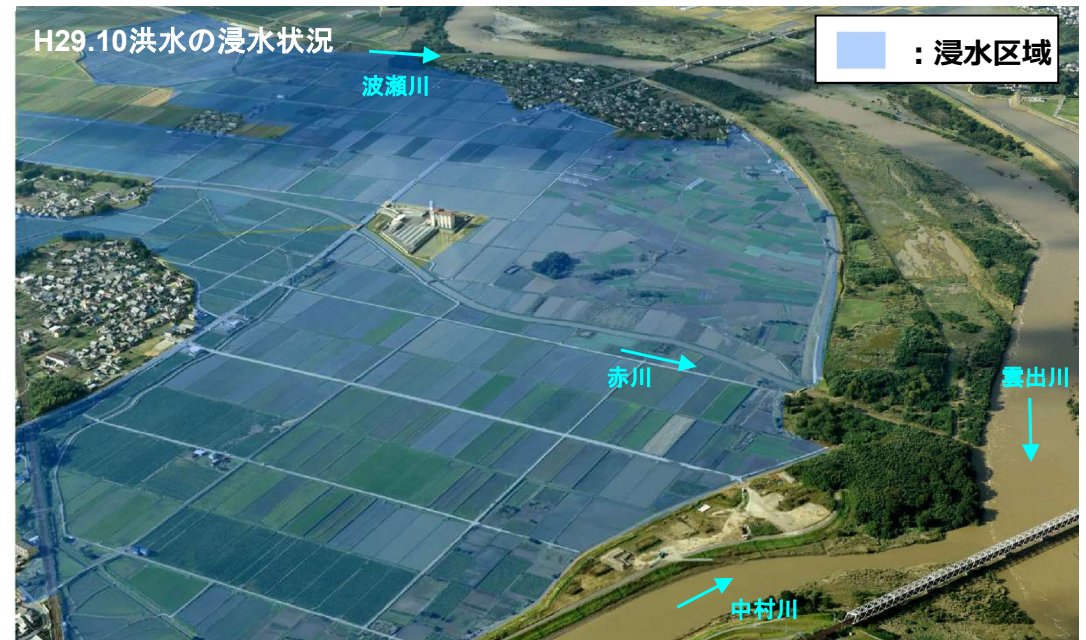
雲出川中流部における過去の浸水実績

○近年10年（平成21年～平成30年）では、平成22年を除いて浸水被害（農地浸水を含む）が発生しており、ほぼ年1回の浸水頻度となっている。

H21.10洪水の浸水状況



H29.10洪水の浸水状況



【H21.10洪水 浸水実績】（約410ha浸水）



【H26.8洪水 浸水実績】（約380ha浸水）



【H29.10洪水 浸水実績】（約380ha浸水）



H21.10洪水の浸水状況



H21.10洪水の浸水状況

